

新方式による「丹後とり貝」の種苗生産を実施

京都府を代表する水産物のひとつである「丹後とり貝」は、京のブランド産品にも認証されており、当センターでは採卵からその種苗生産を一手に担っています。しかしながら、従来の生産技術は作業の煩雑さから非常に労力がかかるという問題がありました。

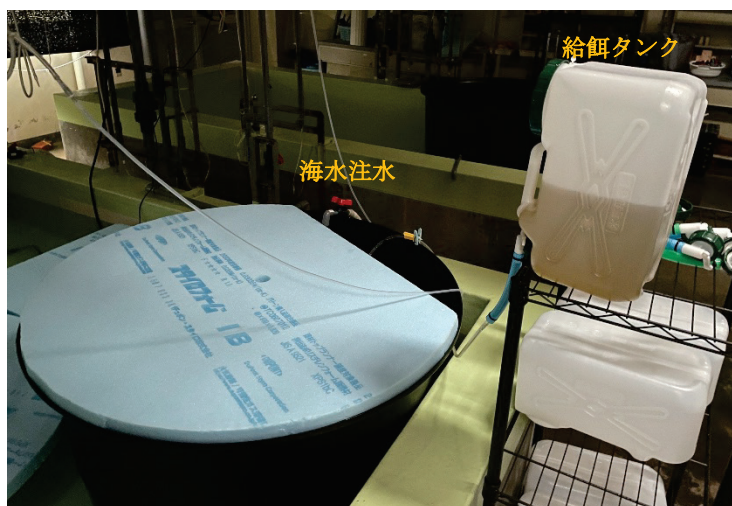
そこで昨年度、トリガイ種苗生産の初期段階である浮遊幼生飼育の作業負担軽減を目指し、飼育システムの変更による省力化試験に取り組みました。その結果、種苗の成長・生残成績は従来と同等に維持しつつ、人員 2 名で 1 時間程度の労務作業に抑えることに成功しました（従来比約 80% 減）。

これを受け、今年度は本方式を本格的に種苗生産に導入し、試験時同様、目標個数の生産とともに大幅な労務の省力化を達成しました。

今後も引き続き生産の工程を見直し、さらなる省力化に繋げていきます。



変更後の飼育システムの構造①



変更後の飼育システムの構造②